

- 1 だいちくは、一ぎようめに、がっこう・がくねん・くみ・なまえは二ぎようめにかき、ぶんしようは、三ぎようめの二ばんめのますからかきましよう。
- 2 だんらくのはじめは、かならず一じさけてかきはじめ、だんらくごにぎようをかえましよう。
- 3 しほどのぎようも三ばんめのますからかき、あたまをそろえましよう。

月 日 ようび

ながれるたぎの水  
 宮浦小 二年 えひら ゆうま  
 ぼくのすんでいるみわのうらか  
 ら一時間はんくらのところは大  
 川のたぎがある。  
 大川のたぎきはじめて見た時  
 たぎには水がたくさんながれてい  
 て、太ようにてらされて、キラキ  
 ラかがやいていた。水しぶきがす  
 ゴくで、まるでプールにあるスラ  
 イダーのようです。上からすべっ  
 みたいと思っ。た。いつまでもいい  
 気もちでいたいと思っ。た。  
 ぼくは、おにいちかんと岩をよ

- 4 よみやすいように、と。をつけましよう。、も。もひとますのなかにかきましよう。
- 5 おはなしたごは、「」のなかにいれましよう。
- 6 「は」と「お」の「と」を「を」をまちがえずにつかいわけましよう。

(不許複製)



- 1 だいもくは、一ぎようめに、がつこう・がくねん・くみ・なまへは二ぎようめにかき、ぶんしゅうは、三ぎようめの二はんめのますからかきましよう。
- 2 だんらくのはじめは、かならず「じぎけてかきはじめ、だんらくごころにぎようをかえましよう。
- 3 しほのぎようは三はんめのますからかき、あたまをそろえましよう。

月 日 さいひ

じのぼり、たきのすぐちかくまで  
 はしっていった。たきの水しづ  
 をたくさんあびて、とてもきもち  
 よくなつた。  
 おにいちゃん、山に雨がたく  
 さんふると、たきの水も多  
 たら、<sup>孝女</sup>を<sup>教</sup>えてくれた。ずと雨が  
 ふらふらとたぎの水もなくなり、  
 水がなくなると、人げも山の木  
 もしんでしまふことになる。  
 これからも、雨がふると、たき  
 に水がながれて、ほくも木もいつ  
 までもいい気もちで、いたいと思  
 う。

- 4 よみをすいようになつて、をうけましよう。ももひとますのなかにかきましよう。
- 5 おはなした「は」のなかをうけましよう。
- 6 「は」と「わ」「ん」「と」「を」を「と」をまちがえずにつかいましよう。

(不許複製)

